愛國婦人

創刊明治卅五年三月廿七日●明治卅五年三月廿七日第三種郵便物認可●毎月二回(五日廿日)發行●電話番町千七百四十五番●同五百廿番●遞送無料●振替貯金口座壹壹弐一番

●定價一部金三錢五厘●半年分金四十二錢●一年分金八十四錢●廣告料一行金六十錢●發行所東京麹町區牛ヶ淵公園内愛國婦人發行所●發行兼印刷人山澤俊夫●編輯者永持徳一

明治四十二年十月廿日發行

Oct. 20th. 1909.

鬼に因んだ俚諺

△鬼の目にも涙、無情なものでも、慈悲の心が時にはあるのを云ふのです△鬼も十七番茶も出ばな、見目好からぬ女でも、若い盛りには美しく見えるの例へたのです△鬼に鐵棒、説明するまでもありますまい△鬼の目にも見のこし、注意深い者にも見殘しのあるのを云ひます△鬼の留守に洗濯、説明にも及びますまい△鬼の女房に鬼神、同上△來年の事を云へば鬼が笑ふ、しかと定まらぬことを笑ふのです△鬼瓦にも化粧、醜いものでも化粧すれば見能くなるのを云ふのです△鬼の念佛、不似合な事を云ふのです

講壇

心の汚痕

森志つか

弱點は如何なる人にも在り

この世の中に、弱點の無い人は一人も無い。憤ぽい人と云ふのは、憤ぽいと云ふ弱點を保つて居る人である。愚痴ぽい、飽ぽい、と云ふのは、夫れ〴〵愚痴ぽいと云ふ弱點、飽ぽいと云ふ弱點を保つて居ると云ふことである。これは申すまでも無いことである。けれども、世の中には、自分は何う云ふ弱點のあるかをも知らずに、無頓着に暮して居る人が少くない。氣の毒な人等である。

鼻と鼻との交換

佛陀の教に
「在昔、一人の男があつた。其の婦は大層美しい女であつたが、唯その鼻が如何にも醜くかつた。
或日のこと、男は外に出かけた。その時、圖らず顔も立派で、鼻も美しい一人の女に行き過つたのである。されば、この男は心の中に
『此の女の鼻を切つて婦のと換へたら、好からう』
と考へて、亂暴にも其の女の鼻を切り取り、大急ぎに急いで自宅へ歸つて
『早くお出でよ、好い鼻を進げやう』
と性急に呼んだのである。
呼ばれて婦が出て來たから、卒然、婦の鼻を切つて、今持つて來た鼻を附けやうとしたが、附くものでは無い。そこで婦は大層苦しんだ、苦しんだことは苦しんだが、苦しんだばかりで、何の効もなかつたのである。
世の中には、愚人があつて、徳あり、名ある人が世間に尊ばれるのを見て、自分も彼の人等と變らぬ徳行があるなぞと吹聽して、却つて、自分の徳を失ひ、又其の行ひを傷つけるものがある。是れは他の鼻を切つて、自分の鼻と換へやうとすると同じことである。」
と、譬喩まで引いて親切に説かれたのがある。

心の賊を亡すは難し

自分の弱點に心着けば、誰れにしても何うかして、自分から其の弱點を取り除けたいと思ふのは當然なことである。けれども、幾何に自分から其の弱點を取り除けたいと思ふにせよ、心に蒔かれてある種子は、地に蒔かれた种子のやうに、左樣容易く取除けられるものでは無いのである。

地に蒔かれた種子であつても、蒔いてから、餘り日子が經てば、取除けるに大層骨が折れる。ましてや心に蒔かれた種子であつて、多くの歳月を經るうちに根ざしの固くなつたものであるから、取除けるのに骨の折れるのは云ふまでも無い。然れば支那の諺にも「家の賊を亡すは易く、心の賊を亡すは難し」とある。

米國で流行る日本向の束髮

米國で流行る日本向の束髮

衣服の汚痕は早い程抜き好い

衣服に鳥渡汚痕が出來たとする。汚痕次第では抜きの法も種々あるから、汚痕は大概抜くことが出來る。抜くことは出來るが、抜いた後の衣服が、汚痕の無かつた時と同樣であるかと云ふに、何うも左樣は行かぬ。何んなに巧く抜いた意であつても、兎角、汚痕を抜いたと云ふ痕跡は、たとへ微にせよ、衣服に殘りがちなものである。そればかりでは無く、汚痕に依つては如何なる汚痕抜き法を施しても決して抜けぬのもある。

人の弱點は、人の心を賊するものである。即ち弱點は心の賊、人の心の汚痕である。心の汚痕たる人の弱點にも種々ある。が、此の世の中に「おぎやあ」と初發聲を揚げた時には、如何なる子供の心でも神のやうに清いものである。白紙の如く潔白なものである。それが漸次生ひ立つうちに、何時しか次第に思ひの外なる汚點が出來て來る。その汚點にも性の善いのも、善からぬのもある。性の善い汚痕は無論のことではあるが、善からぬ汚痕であつてさへも、他で見て居る人の心付きさへ早ければ幾分は、その汚痕を取り除けることが出來るのである。これは衣服の汚痕と同樣であつて、早くさへ氣が付けば大概の汚痕抜きは出來る。然るに、早いうちに心の賊、心の汚痕に氣が附かぬから、汚痕は仲々抜けなくなる。汚痕は抜けないが、せめては汚痕の抜けた風でも装ひたくなる。汚痕の附いた自分の穢い心を、他人の汚痕の附かない美しい心で、せめても飾つて見やうとする。不思議な、馬鹿氣たことのやうではあるが、これが、兎角有りがちの人情である。有りがちの人情ではあるが、遠方から斯る所業を、冷かに見て居る人に取つては、他の鼻を切つて、自分の穢い鼻と換へやうとすると一般であつて、頗ぶる滑稽に見える。稍や同情のある人からは、氣の毒なことに見える。

猿の冠、風船球の日暮し

世の中に弱點の無い人は一人も無いと云つて善い。弱點のあるを自覺すればこそ、各自に其弱點を取除けやうとして日日奮闘するのである。唯だ、心していただきたいのは、自分の弱點を知らずに無頓着に暮すこと〻、自分の弱點を自覺して居るが爲めに、他人の善點で自分の表面を繕ふやうな醜い眞似を致さないやうにして戴きたいことの、この二つである。

風船球の日暮しと云ひ、猿が冠を着けたやうだと云ふ。孰れも卑近な譬であるが、巧いことが云つてあると思ふ。自分の弱點を知らずに、無頓着に、うは〳〵して暮すのは、これぞ風船球の日暮しである。自分の弱點を他人の美點で飾ふとするのは、猿が人眞似して、人らしく冠を着けるやうなものである。

此の二つの醜い、浮いたことの無い人が、先づ眞人間と云はるべきであらう。

次號の「愛國婦人」

△「愛國婦人」の次號は天長の佳節に發行致します▽
△「愛國婦人」の次號は裝を新にして發行致します▽
△次號には愛國婦人會長と副會長の御寫眞を掲升▽
△跡見花蹊女史の筆に成れる木版挿畫を挿みます▽
△其他また次に掲げるやうな玉稿も準備致升した▽
△國樂に對する感想…東京音樂學校長湯原元一氏▽
△支那の婦人の日常生活………法貴すゑ子女史▽
△此他の事は本誌の第三面に豫告して御座います▽

次號は「天長節號」

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

余は斯の如く女子教育家と家庭の婦人に注文す

法學博士　寺尾亨

憂ふべき虚榮の流れ

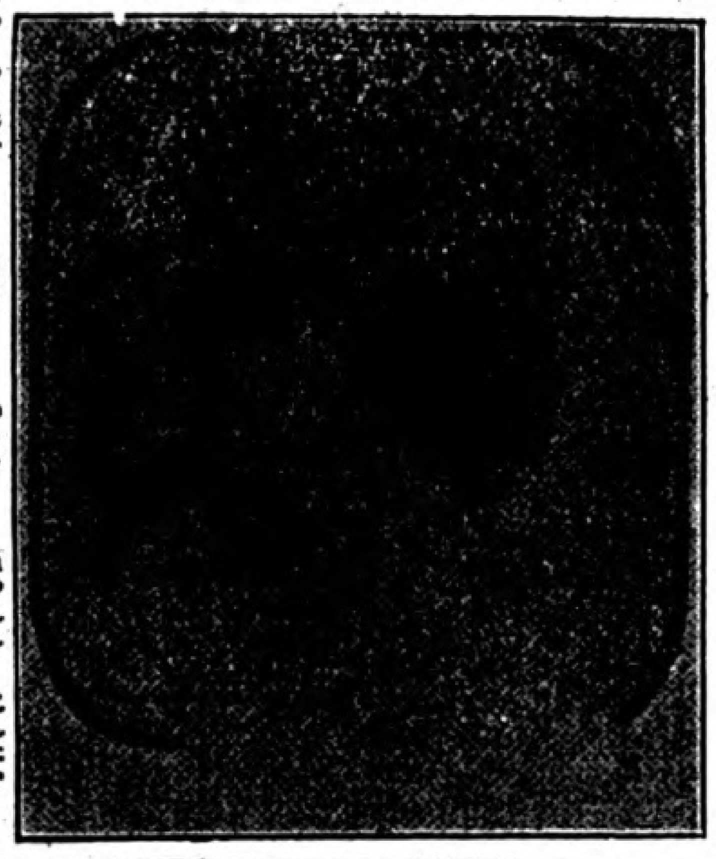
女子の本分は家庭に盡すのが主であつて、社會に對して貢献する處あるなぞと云ふのは、その從たるものであらうと思ひます。されば、私は飽までも世の婦人が、家庭の主人公として、その天職を發揮さるゝ事を望んで止まぬのであります。婦人が貞淑なることは、我國古來よりの教の如くにして、其上徳を修め品性を向上し、優雅なる天與の特質を發揮し、男子を扶けて國家に貢献して、その家を興すべきは勿論のことでありますが、然るに、近時社會の風習が虚榮の潮流に溺れ、奢侈を之れ爭ふと云ふやうになりましたのは、寔に憂ふべきことであります

墮落は當然の天刑

學校へ通學せしめ居る娘等に、華美な服裝をさせるが如きは殊更苦々しき惡習と申すべきである。女子教育家は大に此點に注意せられ、通學の女生徒には、地味な黒つぽき木綿物を着せしめるやうせられたきものである。

女子教育家と雖も、家庭にまで其力を及ぼすことは出來難きことにはあれど、

米國で流行る日本向の東髮



必ず惡習を一掃する勇氣と熱心と忍耐とに依り、一般の家庭と戰はれたきものと希望致します。佛蘭西の如きは華美な國ではありますが、學校行きの娘達に對しては、尼僧のやうな黒つぽき服裝を一般の社會に實行して居ります故、一見して女學生と云ふことが歴然として分ります

米國で流行る日本向の東髮

これは誠に能き習性であると、私は感心致して居ります。

斯樣な事柄は何れの國に於ても上流社會に於ては、概して兎角實行出來難い事ではありますが、せめては中流以下の社會には是非とも實行せられたき事柄と信ずるので御座います。藝者、藝人のやうな風俗を爲さしめ、或ひは劇場などに女學生を伴れ行かるゝ故に、新聞紙の三面種を續出せしめ、惡書生の侵害に遭ひ一生拭ひ去ることの出來ぬやうな事となり一生の不幸この上もなく、終生墮落の淵から脱することが出來ないやうになるのであります。されば、その墮落と云ふのも、畢竟、各自が華美を好む處から來る天刑と云ふべきであります。それ故斯る恐しき天刑を受くることの無きやう女學生は女學生と、社會一般の人に一見して判然するやうに、如何なる外出の場合でも、服裝その他を整ふることを實行せられたきものであります。

此樣なことに、一家族や二家族のものが勵行するだけでは何の効果もないばかりでなく、實行の上にも困難でありますから、かゝることは婦人界の輿論として一般に採用せられたきものと思ふ。

母は地味に娘は派手に

頭髮の結ひ方の如きも、お下げにした方が小兒らしくて宜しいから、學校へ通ふ間は、大人のやうに立派にしないやう互ひに申合せて實行されたいと思ふ。

斯くは云ふものゝ、卒業後は、學校へ通ふて居た時とは異ふのであるから、婚姻の豫備として立派に飾らせ、より良き婿君を得ねばならぬ。斯る次第である故多少の贅澤は免れぬことであるが、娘よりも母等の方が華美に粉飾すると見違へるほど娘を立派に見せることが出來ないから、此時代には、反對に母達の方で、娘の學校行きのやうに黒つぽい地味なものを着、白粉なぞは塗らずに娘を同伴せられたきものである。

母と娘が虚榮の競爭

元來、日本の風習は、娘に良縁を得させるに充分良い習行があつたにも拘はらず、虚榮と云ふ新しい宜しからぬ潮流が推寄せ來り、一方では社會事業に貢献せしめると云ふ好い結果と共に、一方それに伴れて、家庭の責任を放擲し、これを獻身的事業と號すると云ふ宜しからぬ結果を生ずるに至つたのである。これが爲め、母等は母等で、社交上の必要より華美を競ひ、それと同時に娘の方でもまた娘同士で互に服裝を成るべく立派ならしめんとすることになり、母子各艶を爭ふと云ふ次第で、何方が立派なのか判別に苦しむやうになつたのであつて、これが爲めに娘の方が少からぬ不利益を受けたのである。

▲次號の讀みもの▼
私の住みし卅年前の伊太利
これは鍋島侯爵夫人の御直話です

海拔一萬五千尺の谷間に住む平泰の民

二人とも娘にして右なるは寶石を夥多身に飾れり

クルの谷間の女

▽五十哩つゞくクルの谷間

高等小學校以上の知識のある方は、何人もヒマラヤ山の名を御存知でありませう。申すまでも無く西藏の南を限れる一帶の山脈であります、就中エベレスト山は山脈中での高峰、世界での最高峰であつて、海拔二萬九千二百尺もあります。かゝる高山であるだけ、種々異つた景色もあれば、また、種々異つた風俗もあります。その中でもヒマラヤ山脈の中央にクルの谷間と云ふのが、幅は二哩から一哩半、長さは五十哩も續いて居ります。この谷間には隨分異つたことが多い。それを少し御紹介しやうと思ふのです。

▽仕事の嫌ひな住民

高山の山腹を五十哩も續く谷間ですから、處に依ると雪は六月まで解けることなく、加之、處々に數へ切れぬほど枝谷があるのです。しかも、此谷間の中央部を除くの他は、耕作してあるやうな處は無く、多くは鬱蒼とした森林で圍まれて居りまして、眞夏の間は、羊が此處に群をなして居ります。

此處に住んで居るものは、餘り勤勉なものは居りませんで、孰れかと申せば仕事が嫌ひ、唯だ空しく天から自然に授かつた、土地を自家用に耕す位なものです。

▽二十五歳のお婆さん

此地に住む男は孰れも、立派な顔付とは何うしても云はれぬ、が、女、就中、娘の方は仲々美しいのが居ります。最も他の土地の女とは違つて、發達も早いが老けるのも早く、女が二十五歳になると、最早皺がよつて來るのです。

クルの谷間の土人は、一般に非常な迷信を持つて居りまして、我國でも邊鄙の土地で能くあるやうに、いろ〳〵の樹木が神さまに祭られ、そこに祠が出來て居るのです。それと云ふのは、木の頂上には鬼が住んで居ると斯う云はれ、信ぜられて居るからです。

河も亦神聖なものと思はれ、此處で汚い布など洗ふことは決して許さぬことにして居ります。

クルの谷間に在る寺院

▽家屋は一樣、間數は一室

クルの谷間の家々は殆んど皆な同樣の形をして、皆な平家で、おまけに一室限、窓もなければ開きもないのであります。で、羊なぞの家畜は、この平家の椽の下に飼はれてあるのですが、この椽の下は一年に一度限り掃除は致さないのださうです。

家の周圍には椽側樣のものがあつて、其處に穀物とか、野菜とか、畠から取入れたものを貯へるのであります。最も冬の眞中、上の山間へ雪が降り積ると、それが、なだれて來て椽の上に高くつもるさうです。ですから、此雪除けの設備だけは出來て居ります。

(以下第三面第五段へつゞく)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▶微妙の處に注意せよ◀

如才の無いと云ふことは、殊に婦人に必要なこと、考へられます。自分と云ふことを忘れて、人の便宜を計り、都合を計り、成るべく他人に愉快、幸福を與へるやう、微妙の處に注意を要します。此人に適する事でも、彼の人には適せぬと云ふこと、此場合に好ましき事も、彼場合には厭ふべき事、此場合に斯うありたいと思ふても、彼の場合には願はしからぬ事を好く〳〵察し、其人と其場合と場所との三つに好く注意し、差支のない限り、臨機應變に氣轉をきかせ成るべく、自分の接する人々に、便宜、愉快、幸福を感ぜしめるやう、幼い時から、習慣を作るべきであります。

佛蘭西の女

心持の好い佛國家庭の空氣と婦人
愼み深いと經濟向とは婦人の特色
痒い處に手の達くやうな佛國婦人

佛蘭西の家庭生活ほど、羨しいものは無いと歐洲列國の人でさへ云つて居ります。斯く羨しいほどの家庭生活を形作て居るのは、佛國の男女相助けて、共に力を爲して居るのは云ふまでもありません。兎にも角にも、佛蘭西の家庭の空氣ほど、心持好いものは無いと思ひます。

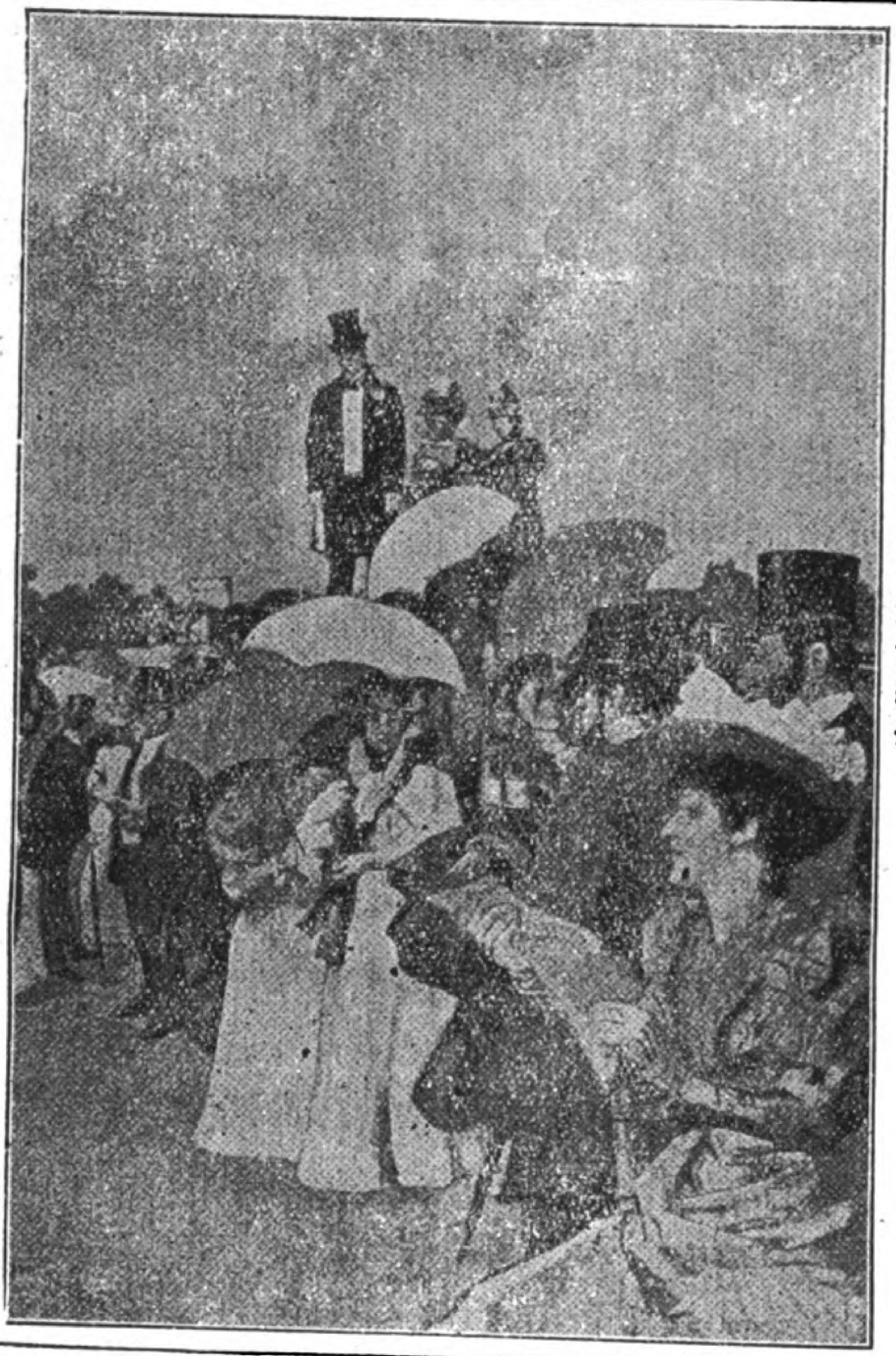
ですから、鳥渡、考へて見ると、佛蘭西の人等が此の心持ちの好い家庭の空氣を振り捨てゝ、野蠻人なぞの居る世界各地の殖民地へ出掛けて行くのは譯の解らぬ事に思はれます。それも、其樣な愁い思ひをして未開の地へ行けば、受け合つて富を得られ、幸福を求められるならば兎も角もですが、何うも左樣ばかりとは限られませんのであります。

愼深い佛蘭西の女

佛蘭西の女とても、人間である以上、完全無缺だと申す理には參りません。世界一般の女と同じやうに、男子と較べると狹量とか、細心過ぎるとか、嫉妬深いとか云ふ缺點があります。のみならず、大概の佛蘭西の婦人は、節儉を通り越して、早や吝嗇と云ふ惡德に心が染つて居るのであります。ですから、無論、金錢は好きで、金錢を溜めることには全力を盡して居ります。

ですが、たとへ何れ程缺點があるにもせよ、百分比例を立てゝ見ますと、佛蘭西の婦人ほど、性惡であるとか、若しくは不謹愼が原因で間違ひをすることの少い割合を示す婦人の種族は、何うも他には無いやうです。實に佛國婦人は此上も無く愼み深い婦人でありまして、斯くっ愼み深いが爲めに、佛蘭西の家庭は、平穩に、相等の威嚴を保て居られるのであります。それは佛國婦人とても、他國婦人と同じやうに、意地の惡い處はありますが、然りとて此意地の惡い心を口にさらけ出して、濫に叱り飛すと云ふやうなことをば、佛蘭四の婦人は決して致ないのであります。愛嬌に富める、程の好い佛國婦人は、夢にも、優しき婦人の美德を傷づけるやうな『騒躁い』所業は爲ぬのであります。

これと共に、佛國婦人の長所は經濟家と云ふ點にあります。しかも、この經濟の致方が如何にも巧みであります。佛國の婦人は、自分の理想せる通りに經濟を立てる爲めには、實に如何なることをも喜んで犧牲にするのであります。で、總てを犧牲にした結果、思ふやうに、理想通りに經濟を立てることが出來たとすれば、實に此上も無い喜びを感ずるのであります。實に家庭の婦人として、佛國の婦人は、經濟の爲めに生き、自分の良夫の爲め子女の爲めばかりに生きて働いて居ると云つて宜しいのであります。斯く佛國婦人は經濟一點張であるのです。ですから、或る作家の筆に上つて居る通りに、佛國婦人に婦德ならぬ行ひがあるにしたところ、斯く道ならぬ行爲をする心の大本は、結婚をする爲めの資本を得たい〳〵と云ふ事情ばかりから崩したことであつて、決して他の原因があるのでは無いさうです。



競馬場に集へる佛國巴里の貴女紳士

佛國の婦人は國家の元氣

佛國の婦人は、何の點から申しましても、國家の元氣で、永遠の勢力で、また國民を濟度するものであると云つて宜しからうと思ひます。泰西では『優しき半面』と云ふことを申しますが、好き妻が良夫の『優しき半面』であるが如くに、佛國婦人は佛蘭西國民の『優しき半面』であると、立派に申さるゝことゝ思ひます。然れば佛國の家庭は、婦人の力を待つて其の光彩を生じ、婦人は女子のために、家庭をば樂しき憩ひの場所にするのであります。左樣して、到底、口や筆では述べ盡されぬ、心の底から湧いて出る眞の愛を子女に注いで居るのであります。そして、好く用ひられさへすれば、婦人の此上も無い好き天稟である處の細心しい注意を以て、子供に、金錢の重んずべきこと、その他親族との交際法なぞから、其他日常に須用な智識までを注ぎ込むさうであります。

家婢の給金は日本と同樣

佛蘭西の家庭を觀察する外國人に取つて、一番眼に立つ二つのことは、都會と僻地、貧富の孰れを問はず、何處でも注意深い經濟の行はれて居ること、家庭と云ふ機關を巧妙に運轉せしめる齒車に絶えず油を引く役に立つ處の、如何にも麗はしい禮儀作法と、身に泌みるほどの優しさである。これが、佛國の家庭生活の裡で、最も他人の眼を惹く要素であります。

實例を擧げて申さうならば、冬の寒い頃、突然、佛蘭西人の家に入つて見ると極く富裕な人の家であらざる限、極寒の頃でも、英人や米國の家のやうに、充分な火の氣がない。これが一つ。大概の家に下女は一人しか置かぬ。しかも此一人の下女が萬事萬端のことをする。しかも給金はと云へば、月に六圓乃至十圓に過ないのであります。これでは、日本の下女の給金と餘り違ひはありません。これで二つ。此他にも種々ありますが、此二つのことだけでも、如何に佛國の家庭が經濟向きに出來て居り、經濟を重んじて居るかゞお解りになることであらうと思ふのであります。

クルの谷間（第二面第五段より續く）

△十二歲で結婚する

男も女も『オッツー』と名づけられた衣服を着て居ります。これは極く荒い毛織であつて、紐を腰へ卷きつけて止めてある、云はゞ我國の帶のやうです。帽子は鳥打帽子と云つたやうなもので、腕も脛も裸になつて居ります。

子供のうちは、全く被物なしで居りますが、女の子であると、漸々妙齢になると、木綿、絹、天鵞絨なぞの切で頭を包みます。稍や身分あるものは、好んで寶石等で身を飾り、指環、耳環、鼻環などを箝めて居ります。

この地の娘は十二歲になると結婚をし、結婚すると、全く自由の身となるさうです。

結婚の儀式としては、男から娘の兩親に贈物をし、親族や知人を集めて『ルーグリー』と云ふ米製の麥酒やうのものを飲むばかりです。

△暮し好いクルの土地

クル人ほど仕事の嫌ひなものはないと思ふが、然しそれも其の筈、土地は廣く、その割合に住む人は少ない。でありますから、地味も好く、あまり骨を折らずとも、飲食物に事缺ぬまでの物を得ることが出來るのであります。

斯く暮しの仕易い處ですから、西藏や其他、近くから態々住みに來るものが隨分あるさうです。

『愛國婦人』の次號は特に『天長節』號として發行日を繰上げ十一月三日に新裝を凝して發行致します。唯今から專ら其準備中で御座いますが、既に編輯局に準備の出來て居るのは

鍋島侯爵夫人　佐々木信綱夫人
寺尾法學博士　前田文學博士
高田法學博士　入江子爵

等の方々の有益にして、他に類のないお話や論説をはじめとして、その際までは、發表せずに皆さまのお樂みにして、置かうと思はれるやうな珍無類のものも御座います。萬望次號の出るのをお樂み下さい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◀幸福な人不幸な人▶

女は氏無くして玉の輿とか申しますが、氏も素性も立派で無くて玉の輿に乘り得た女で、末の末まで立派に暮せて行けた女性が何れほどありませう。世の中には氏も素性も賤しく無い身でありながら、玉の輿に乘るどころか、悲雨慘憺たる境遇に一生を過す女性もあります。また何うかして、恐しい、悲しい、つらい可厭な境遇から脱け出たいと種々の試みをする女性、いろ〳〵ともがき、焦心る女性もあります。焦心つた爲め、自分で自分の運命を拓く人、もがき〳〵愈々悲しい境遇に陷る人——人さま〴〵——斯う云ふのが浮世なのでせう。

浮世眼鏡

女優を志願した伊藤つる子
素性は立派な武家の成る果
父の墓前に決心の誓ひ

伊藤つる子

同じ者の字のつく商賣にも種々あります。學者、醫者、役者、藝者……いろ〳〵ある。昔形氣の人に云はせると、昔は役者を河原乞食と卑しめたものだと云ひます。河原乞食であつても無くても構ひませぬ。此處には浮世眼鏡で見た女優の一人の悲しいお話を、無事泰平に、安閑と世渡りの出來る幸福な方々に御覽に入れるまでなのです。

▲者の字の付く人の一人

伊藤つる子は新たに帝國劇場附屬技藝學校に入學した一人です。行末は女優にならうと云ふのです。何うせ女優にでもならうと云ふ程の女性なら、孰れしいゝか者であらう、自墮落な女性であらうと思召すことでせう。

自墮落な女性なぞのことは讀むも眞平であると、仰有る方は、此つる子が何んな女性か、何んなに毅然した女性か、何んなに悲しい境遇に在る人かを、此處に記してある閱歷のうちに讀まれて、扨てそれから、眞平か、眞平で無いかを取りきめて、戴きませう。

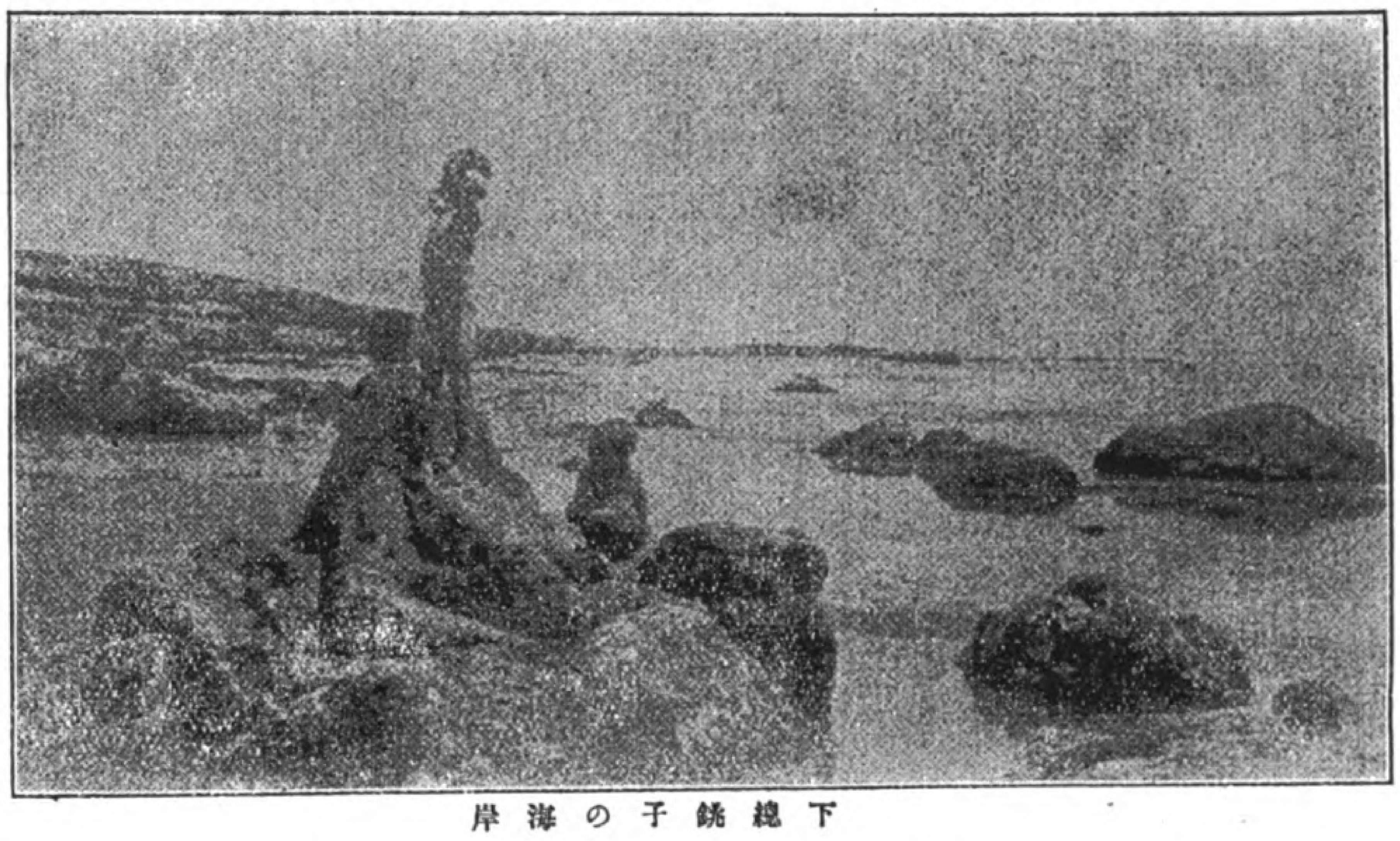
▲盲目の母から武家の敎

嘘、僞りの無い經歷を、伊藤つる子は斯う述べました。

「私は宮城縣仙臺の者で、父は男爵伊達邦茂腹心の家臣でありました。明治の初年、北海道開拓事業のため彼地に渡つて居ります中、或る事業の失敗から父は病氣になり、家族を引連れ郷里に歸りましたが、爾來は兎角身體が健れず、遂に去る明治四十年に死亡致しました。

「殘されたのは盲目の母と兄と私で一家は忽ち暗雲悲雨の中に閉されて、悲慘極まる境遇となりました。然し幸にも盲目なる母は武家の訓育を受けたゞけに氣健でありますし、殊には堅固な基督信者でありましたから、斯樣な悲境にも決して弱りませず、兄と私を勵まし導き、大いに敎養に務めて呉れました。私も基督信者の關係から仙臺の高等女學校に入學しまして、勉强致しました。

「母は私等兄妹に、常住——吾家は豊臣家に仕へ、その沒落の時まで忠勤を勵みたる七騎の内の隨一と呼ばれたる伊藤丹後守より出たる由緒正しき家柄である。かゝる氏素性正しき家に生れた汝等は衰へたる伊藤家再興を夢にも忘れず、名を擧げ家を興せ——と敎へて居りましたので、兄も私も、血統、武士再興、と云ふ事は片時も忘れません。



下總銚子の海岸

▲劇界に投じた非常な決心

血統を忘れぬ武士再興を忘れぬと伊藤つる子は自身述べて居ります然るに、自ら好きこのんで河原乞食とまでに卑められたことのある役者の境遇に身を置かうとするのは前後不そろひなことではありませぬか。さは云へ前後不揃ひと云ふことは、過渡時代と云はれて居る今日、何事にも伴つて居ることなのです之れは獨り伊藤つる子ばかりを咎むべきではありますまい。

扨て、伊藤つる子は女優にならうとした動機に就いて、何う申して居りますか

「私が在學中のことでありました。東京に今度、女優學校が出來て、代議士の御孃さまゝでが御入學遊ばされたとの評判でありました。何故か、此の時、女優と云ふ問題が此の身の一大事のやうに響きました。

「しかし、目今の悲境を打破り、名を擧げ、家を興すには尋常な事では出來まい殊に私は女の身でありますれば、何か變つた事業に依らねばならね。それには自分が一身を劇界に投じ、腐敗した我國の劇壇を武士的基督敎的精神を以て刷新し藝人社會の惡風を一新せんと、深く、固く決心致したのでありました。」

▲亡父の墓前に誓の一刀

彼女は語りつゞける。

「素より物固き母の事でありますから仲仲承知して呉れません。それを一年かかつて漸く納得させ、同意を得ました。偶然この八月藤澤淺次郎が仙臺に參りました時、私は訪ねて志望を打明けました處、直ぐ承諾して技藝學校に入つては如何と云ふことになりましたので、上京する前日、母は、當時開西中學校の敎師を勤めて居ります兄と共に、私に手を引かせ、亡父の墓前に參り生る人に物言ふ如くに娘つるは今度女優になる決心を起しました。若し貴方が御在世ならば御許しもありますまいが、つるは固い決心で、誓つて家名を興すと云つて止りませんので、貴方に代り妾が許しました併し其のためにつるが家名を汚すやうなことがありましたら、私は貴方の遺愛の短刀で、唯一突きに刺し殺し、申譯けのため、妾も自殺致します、何卒お許し下さい——と、盲いた兩眼から涙をはらはらと流し、墓石に對して許を乞ひ、尙其墓前で、兄妹に名を成し家を起すことを父に誓はせました。そして、翌日私は仙臺を出發いたしましたのですが、今頃は手を引く妾が居ないので、さぞ盲目の母は困つて居ることで御座いませう。」

流石は優しき女心であります。語り了るとゝもに、熱い涙がはら〳〵と、つる子の膝の上に——。

雜誌の雜誌

雜誌一目

▲母を助けて妻を捨てるか
▲妻を助けて母を捨てるか

「婦人畫報」十月號 文學士 岡部精一氏

母親と妻とを伴れた男子があつて、旅行の途中で難船した。處が其處に木が一本浮いて來た。それに二人が取付けば浮いてゐても三人となれば沈んでしまう。此時日本人なら妻を捨てゝ母親と共に助かることをする。が西洋人だと母を捨てゝ妻を助ける何時日本は斯うであつて西洋では左樣でないか。日本の人の思想として母親は一人である。が、妻は幾人でもかけがへが出來る。であるから、大切の一人の母親を助けて妻を捨てるのだと云ふ。西洋人であると母親はもう年老つて既に此世の義務を盡し終つたものである妻は若く之から社會に盡さうとして居るものである。母は過去の人、妻は未來の人である。依て妻を助けて母を捨てるのだといふ考へである。これは兩極端の思想の對照である。善い例である。

▲健氣な犬の働き 「少年」第七十三號 獸醫學士 內田濟之助氏

今から百年許り前、佛國が英國、西班牙、葡萄牙の三國と戰を交へた時の事であります。佛軍の一士官が其陣中一匹の犬を飼ひ、大層可愛がつて居りました。所が此士官は或日の戰爭で敵の彈丸に當り倒れたのであります。此士官の胸には貴重な勳章が輝いて居りましたので敵の一兵士が目を付け夫れを取らうと致しました。それと見た犬は有らん限りの聲を出して此惡兵士に吼付き、その邪魔をしましたが、何を云ふにも兵士と犬のことですから此健氣な犬は惡兵士の銃劍の爲め、非業の最後を遂げたと云ふ事であります。

▲松茸の西洋料理 「婦人くらぶ」二ノ十 外務大臣官舍厨庖主任 宇野彌太郎氏

蟲の無い松茸の傘の大いのを十箇撰み、好く清水で洗ひ薄皮を剝取り、莖の上部より庖丁にて切放し、傘ばかりにして別の器に移す。それから牛肉でも豚肉でも鷄肉でも、五十匁ほど肉挽にかけ庖丁で尙充分叩き裏濾にかける。別に玉葱をバタで煎つけ、その中へメリケン粉を匙に二杯ばかり加へ弱火で煮付けたものを擂鉢に移して好く擂り、前に作つた裏濾にかけた細い肉を此中へ混ぜ、尙牛乳三勺ほど加へ、充分に擂り混ぜ再びうら濾にかけたものを、前に取殘してある松茸の傘を上向にして莖の周圍へ盛上げ、周圍ヶ體へメリケン粉を附けフライ鍋にラードをひいて煎あげるのです。フライ鍋に入れる時には三箇づつ程揚げる方が好と思ひます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

和歌　秋季雜題

天　京都　彌生子
高瀨川なよら柳の木下道船ひく男こゑのよろしき
評　高瀨の流すら〳〵として宜しき歌

地　京都　但村初子
かれ聲に罵るきこゆ秋雨の古都の夕ぐれ疲れたる子等
評　印象派の畫に在るやうの趣なり

横濱　鈴木まつ子
わか背子かいくさならしにいでましゝみ潮を思ふ秋の夕かせ
評　これは淡彩の純日本畫の趣あり

人　函館　五十嵐やす子
見のこせし夢のはかなき來し方をくりかへしてもしのふきみかな
評　たゞなだらかにして………

岩代　西山佐保
晝の間の一日にあまる事はてゝ未たふけもせぬ秋の夜長き
評　つれ〳〵のあまり物し給へるか

秀逸

秋更けし枯野のすゝきうらかれて夕の風にゆらぐさびしき　京都　小原子
はきの花ちりしかき根に蟲鳴て秋の夜寒くなりにけるかな　岡山　西村長子
老人のよれの齢もかさねらむことしはみのる田ものとみくさ　神奈川　足立原とく子
初紅葉たなりて友におくれたり日影うすらぐ山の下りみち　岩代　西山さほ子
ふるさとのやれしさまなはみせしとて垣根にしげく露のおきたる　横濱　鈴木まつ子
ほの〳〵と島かくれ行く霧のもとに聞ゆつりするあまの聲々　岡山　森島古野
おく露にきらめく月の影更けて秋おもしろき野邊の色かな　東京　望月米子
てりまさるこよひの名をや惜むらん月なさへきる浮雲もなき　備中　林秀子
まきの葉におきし我身は露のたま風にゆられてきえなんとする　吳　竹入勇子
思ふとち袖なつられて秋の野にはきの一もと折りてかへらむ　三河　みとり子
秋來れば續く山さとうら淋し子を思ふ人親思ふ人　下野　水谷なを子

俳句　森　ゑつか選

天　府下　松本和子
桐一葉座頭の足に踏まれけり
評　寮には一人物思ふ人

地　横濱　らく女
鳥飛んで熟柿落ちたり潦
評　昨日も今日も續く雨の日

京都　はつ女
遠碪木曾路に入れば狹霧ふる
評　寐覺の床に憩ふ巡禮

人　神戸　坂本崎子
秋高し鳶の輪を書く池の上
評　無心に遊ぶ小供八人

東京　大郡まさ子
小家つゞきかきね〳〵の柿ざくろ
評　見過しにして通る乞食

佳作

蟲聞に來ませと乳母の便り哉　府下　松本和子
逢ふまじき人に聞えよ戀碪　京都　はつ女
掃廻る側より落る木の葉かな　東京　中村えい子
行秋や石切山の明の空　横濱　らく女
中分は萩に隱れて筒井筒　福井　飛田わさ子
小春日や柿色付ぬ百舌鳥啼ぬ　京都　彌生子
馬道の轅に折らるゝ木槿哉　神戸　坂本崎子
道端の野菊なかざす女あり　京都　田中くゑ
秋夕こゝら裏町木賃やど　尾張　榊原花代
古塚に白き桔梗の咲にけり　備後　世應鶴子
種々の蟲の聲して晝の月　三河　松野みどり
名月や土橋を過る笛の音　東京　西村鶴子
石戰の跡や夜毎に遠砧　靜岡　櫻井まさ枝
秋晴や黄なる背なる藥瓶　東京　山本ふみ子
月の踊る樣に見えけり山の上　備後　妹尾常子

月の回記　神月崎子

三日月の頃より待ちし中秋の名月も生憎晝間より雨降りしきり觀月思ひもよらず

俤を松に殘して月の雨

明くる日は早朝より百舌の鳴く音も晴がましく十六夜の月嘸かしと慕はし

芋掘るや暮れぬに月の空響めて

觀月の用意も整ひ裏の離座敷の二階障子開け放てば程なく待得し十六夜の月は上りぬ

十六夜や前宵の不興を閑却す

短文　秋の思

品さため　京都　白百合子

久々にあへる友五六打つれ高臺寺の萩見にものし、十三夜の月さへ渡るまで、ふり分け髪の頃なつかしみ、分れて後の起きふしなど、心ゆく迄語り合ふ。秋の花かず〳〵なる中にも、君等は何をめで給へるやとの問出しより吾は撫子、吾は萩よとこゝにも言葉の花は咲きぬ。かりそめの品定めにも御氣性忍ばれて興深く覺ゆ。清き水かよふ小川の岸に露重げにも咲く野菊のいろ香、その愛らしき姿を、吾はこよなう好むとこたへぬ。（一等）

皇靈祭の日南禪寺に詣ではべりし即夜　大阪　彌生子

黄金色に黒味を帶た佛陀の慈悲深い御顔ガンとおさへられる樣な嫌な鐘の音。蟲くさいそら燒の香。フト氣がつくと向ふの經机の前に二人二八の春を花にそむいた尼僧。白い着物黒い袈裟。冥目しては小聲に何か誦じて居る。噫妾の八ッ口の赤。燃ゆるやうな赤。引裂てしまはうかおゝ寒い。目が覺むれば生憎私の夜具も敷蒲團も皆眞紅な裏、白い〳〵體が電氣に觸れた樣ヒリ〳〵として涙がとめど無くこぼれる。（二等）

愛國婦人會東京支部授産所に作業せる軍人遺族の子弟

亂れ心　武藏　佐野くに子

うらぶれの落葉吹く風もなやみし身の感應は……さてもわれ厚き伯母君の情のひとすぢにいたつきの重りも薄らぎぬ。幾度か母在す郷を慕ひ泣きては笑はれし身もこの深き御情の伯母君のみ手を離れ明日は郷にと思へば名殘惜しまれて、悲しくも、又た待ち給はんの母を懐へば嬉しくも亂れし心涙とゞめがたし。（三等）

暮ゆく空　京都　小原子

雨の休んだ空に、まだ浮雲たゞよいて肌寒の北風に次第〳〵に南へ吹き流される芭蕉の葉がばさ〳〵となぶられて居る昨日からの雨に川には水かさがまして居る夕を待ちわびて蟲が泣き出した。

客人　東京　中村えい子

亂れし髪くしけづり衣服とゝのへ今し立出でんとせしに相憎や一人の客人。稀れに來給ひしにはあれど、今外出せんとする矢先に例の長居の君のこちたく話しかけ給ふに、歸らせ給へとは云はれず、さりとて急き立てんも流石にて、心のみしきりにときめく。

折にふれて　横濱　鈴木まつ子

しみ〳〵と降る秋の雨、ほんとうに淋しう御座います別けて夜は一しほ淋しいのです。啼く蟲の音ばかりさやかなのを、獨、曉の寐覺の床で聞く身の私しには、彼の山寺で此の雨、蟲の音を聞いて居るやうな心地がいたします。

日誌　活きた社會活きた世界

▽十月一日　露國皇后には激しき憂鬱症にかゝれりと傳へらる
▽二日　神宮遷御式伊勢の山田にて行はる△京張鐵道開通式擧行せられ參列者三千人に及べりと淸國北京より報ぜらる
▽三日　北陸地方巡啓中なりし東宮殿下には本日靜岡へ着せらる△渡米實業家一行米國ナイアガラにて久邇宮殿下及同妃殿下に拜謁す
▽四日　獨逸皇太子殿下はライト氏と共に飛行器にて空中飛行を試みらる△淸國軍機大臣張之洞逝く
▽五日　基督教宣教五十年會本日より神田青年館にて擧行
▽六日　東宮殿下北陸地方巡啓を終らせられ本日還啓△伊勢神宮遷宮式本日了る
▽七日　伏見若宮妃殿下香港より御出發渡歐の途に上らせらる
▽八日　東京内國博覽會開會無期延期と決す
▽九日　滿洲出發につき伊藤博文公御暇乞のため本日參内す△張之洞追悼會築地本願寺に開かる
▽十日　臺灣總督佐久間大將には本日より一ヶ年間留任仰付けらる
▽十一日　露國大藏大臣ココフツェフ氏極東視察の爲め出發す
▽十二日　帝國海軍將校六百餘名の陞級更迭あり

いろいろ

□心理學通俗講話　の第一輯は心理學通俗講話會で編纂して同文館と云ふ本屋から發行されました。これは同會第一回及第二回の有益な講話を集めたもので中でも着物の色合、子供の嘘言、日本の舞踊、嫁と姑なぞは面白く御婦人方の御參考になるものと思はれます定價は三十五錢發行所は神田表神保町二同文館です

□實用割烹講義錄　有益なものです。卷頭に季節惣菜料理、次に西洋、日本、支那料理、その他和洋菓子製法、諸國珍料理、割烹用具案内等が載つて居ります

□樂しき婦人　婦人世界の增刊です。婦人界の種々の方面の方々の樂しき世渡りを集めたものです。淋しき秋に樂しき話も一興でせうと思ひます

□押割麥　麹町元平川町三番地平河天神前信濃屋では押割麥の改良に苦心中の處今度最も良好なものを製へ業務擴張と一緖に電氣力押割機械を設へ廉價で販賣するさうです

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

長詩　哀調

閃光
京都　但村初子

そよとのおとづれにも
輝はあふれ
光は若き心の波にたゞよふ。
萬象は光失せて
その光に、溶けて去なん……。
大なる哉、その光よ。

醒めたる人のかなしみも
すくはるゝ時こそあれ。
奇しきかな、
非時の花の香、樂の音——
かの天上のものにはあらね
若き心の鈍色の戸帳ゆらぎ
そのかなしみの戸帳に
閃光は入りぬ。
あはれ、たまゆら……。

更に、めさめぬ醒めたる魂、
昨のうれひ、今日の夢、
來ん日のかなしびの、根ともなれ
更に、更に、醒むる日はあらめ。
五かへり、十かへり、
美しき春よ、若き日の、あゝ
奇しき光よ、輝よ、
つゝみ去れ。我を、人を、
天地の、萬象を、溶かし去れ、光よ。

可憐の友
武藏　佐野國子

十三絃の響をば、今宵限りと
知らでかなづる友
おのれの病名又しらず
癒ゆべき日近しと
微笑のいぢらしさ
我胸の奥の戸の

悲哀調　いと高らかに　ふしめまぎらす　せきくる涙　かくすつらさは、

友
京都　白百合子

去年の今宵始めてま見え
なつかしの君よと思ひ初めぬ
起きふしを共に樂しかりしは
月四度變るつかの間にして
わすれもやらぬおぼろ夜の月
あはく照らざる寒き日
身は遠く北と南にわかる
運命とはいへかくまでに
したひあひたる君と吾とを
別つ神あなうらめしと
身をも心もたへなんばかり
幸くあれよと朝夕いのる
友が上をばほのかにきゝて
去年の今宵をしのぶぞあはれ

雁しらず
東京　中村えい子

そと訪づれぬ秋の風　そと訪つれぬ秋の色
槍のかきも色づきぬ　籬の菊も丈のびぬ
夜を通して打きぬた　夜を通して鳴く蟲よ
更ゆく秋の眞夜中よ　文よみ明す我のみか

秋
横濱　まつ子

大そらもすみ、心もすみて、しづけき庵の秋
あるかなきかの朝かぜに　木犀のかほりてゆかし
何となく　人なつかしく　わがむれとゞろく

雑誌の雑誌　(雑誌一月)

▲應用の利かない習字と應用の利く習字
「臺灣愛國婦人」十　小野篁堂氏

手本は何時迄も同じ流を更へないのが好い。他の手本に就て其佳い處を取り、工夫して書いて見るのも宜いかも知れませんが度々手本を更へ自己流の筆法を入れるやうになつては、一年習つても一年の損になるばかりです、今の婦人方に見るのは應用の利かない點です手本で習つた字は好く書けても書き馴れない字は旨く書けない。習ふのも大切ですが慣れるのは必要なことで、左様上手でなくとも慣れた字の書き方をする人もあります。何うも今の婦人方の手紙は慣れないのが多いやうです。

▲馬鹿になつて暮した實驗
「女學世界」九の十三　小野崎夫人

或日良人は私の所作に腹を立て、家風に合はぬから出て行けと申しました。私は一旦參りましたからは此處が私の家で此他には何處へも出て行く處は御座いませんと申しますと、良人は何でも構はぬ出て行けと强情を張りましたが私は平氣で、あの今日はお天氣が惡う御座いますから、天氣の好い日に致しませうと、風に柳と極輕く受け流して申しました。良人は如何にも圖々しい奴と思はれた樣子で、プン／＼怒つて居られましたが、何分私が圖々しく一向動きませんものですから、男もとう／＼根が盡きたと見えて、此奴仕樣がないと云ふ風で默つて仕舞ましたその後も何か腹の立つた時には屹度出て行けと申したが、例の調子合で私が一向動かないのを見て、仕舞には矢張り、あゝ今日も天氣が惡いかなあと、半ば滑稽的になりました。

▲自分の勝手都合が本位
「女子文壇」五の十三　羽仁もと子

一つの小なる事をするにしても斯う／＼するのは自分の爲に都合の好いことばかり考へて、それが他人に何んな影響を及ぼさうとも頓着せぬ人がありましたならば、何人も其無責任なる行爲を片腹痛く思ふでありませう。一人の人の結婚の人世に及ぼす影響は大なるものであります。殊に其子孫の直接に受くべき幸不幸に至つては實に思ひの外なるものであります。男も女も唯自分の都合勝手ばかりを本位として結婚するといふ無責任なることは、いづれの世に於ても決して許さるべきではないと思ひます

▲信州上田の南瓜祝ひ
「實用割烹講義録一」奥村繁次郎氏

信州上田邊では冬至の當日に南瓜祝ひと云ふをなする其前日から神田と云ふ本場所から賣に來る何處の家でも買込む。當日になると煮付、胡麻煮いろいろにして喰ふ。恁うすると其年内は決して惡い風邪を引かぬと云ふ。東京では中風に罹らぬ呪に喰ふ。

▲喧嘩好きの夫婦の一例
「婦人世界」四の十一　村井弦齋氏

妻「あなた先年日光の紅葉を見に行つたのは十一月でしたネ」良人「ナニ、十月だよ」妻「イ、エ、十一月でせう。何でも綿入の襲着をしたと思ひましたもの」良人「日光は寒いから綿入を二枚着て行つたのだ。日光の紅葉は十月が盛だよ」妻「だつても、箱根の塔の澤で紅葉の枝を折つて來たのは十一月の末ですよ」良人「箱根と日光とは氣候が一月も違ふよ」妻「だつても日光へ行つたのは箱根へ行つた時より少しばかり前ですから、十一月になつてからですよ」良人「ナニ十月だよ」妻「イ、エ、十一月です」良人「おまへは强情だネ、天長節の前じやないか」妻「アラ、天長節の後ですよ。天長節に團子坂へ行つて、それから後日光へ行つたのです」良人「馬鹿を云へ、日光から歸つて團子坂へ行つたのだ。自分が忘れて置いて何を云つてる」妻「あら、あなたこそ好くものをお忘れなさる癖に、近頃少し耄碌なすつたよ」なぞと、譯もないのが喧嘩好きの夫婦によくある事です。

よろづ問答

白楊に就きて　那須わか子樣へ申上げる前號へ掲げました御質問に就き服部理學士に問ひ合はせました處、白楊の上葉、下葉より大いのは其の樹の齡又は種類等に關係があつて、實際の樹を拜見しなければ確答も出來ないさうですが、尙ほ細かに御通知を願はれたら結構だと云ふことでした。

問　西洋室内運動にエキゾルサイザー、ナインピンス、リング、トース等がある。後の二つは知つて居れどエキゾルサイザーとは何んな事か存じませぬ御存知の方は教へて下さい（神戸　浦の月）

問　料理のことの好く解る本はありますまいか、伺ひます（臺灣　とし子）

答　いろ／＼ありますが此頃芝白金臺町一の卅七東京割烹講習會から出た「實用割烹講義録」なぞは仲々親切にいろ／＼のことが載せてあります

問　姙娠中死人へ手をふれると胎兒に靑あざが出來ると云ふ事を聞きましたが事實でせうか、心配故お伺ひ致します（京橋　愛讀者）

答　左樣いふことを申さるゝ方々よくありますが決して其やうなことは御座いません、御心配には及びませぬ

斜視（本院）眼科 一般 特に成形手術
牛込市谷田町三の廿新見附外　畑眼科院　電番一八六六　入院隨時
（分院）芝區田町札の辻電車停留場前

ちじれもくせも もはへうけあい　二大奇方劑
本方は女髪結師安部歌子女史の多年實驗を經たる證明秘方劑にして是迄の使用者を悉く滿足せしめたる奇劑なり往復端書紹介詳報す
東京市麴町區三番町六十七　小林濟世園

秋冬季節 嶄新模樣　半ゑり 帶揚 類
羽 大 博 襦 ネ 絞 角 ま
織 中 多 袢 ク り 形 げ
肩 巾 伊 袖 タ 長 ゑ 形
裏 帛 達 前 イ 襦 り
地 紗 巻 掛 類 袢 巻
本季節奇拔大模樣御目新しき各種ゑり帶揚其外行らん限りの品澤山調製取揃へ仕御直段當春前とは一際安直に渾て出來候
新橋竹川町十二 電信二〇二七 本店　ゑり治
神田表神保町壹 電本局九五二 支店　ゑり治

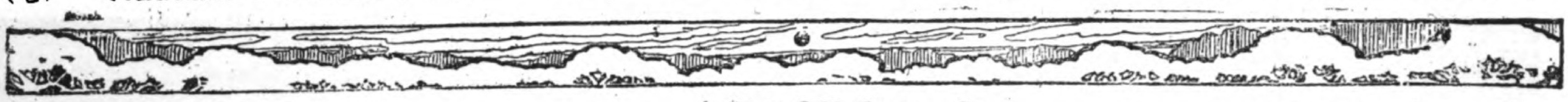
胃病良藥　太田胃散

腦神經精神病科　診療確實 病室清新
東京龜戸町 電話浪花二五五二
加命堂腦病院

小兒病一般
京橋區南鍋町風月支店斜向 電新四八八壹
宅診午後　醫學士　福田謙之

各新聞に好評を博す
家庭お伽話（第三十五編）
山中鹿之助
出づ!!　賣切にならざる内御買求めを乞ふ
菊判八十頁美裝（附錄澤山）
石版極彩色口繪二葉　本文挿入駒繪廿葉
最も讀者多きお伽話
貝細工
實價金八錢　郵税二錢
東京市日本橋　春陽堂　振替一六一七

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



醸造元 千葉縣野田町 茂木七郎右衛門
電話（キハク）又（ハク）

最上醬油

於淡路島博覽會 名譽大賞牌受領

キハク印

キハク印

醬油は味がよくて調理にかなつて居ると云ふことは皆さん一般の評判てすどーか其あぢのよくてそして經濟てあると云ふことを御ためし願ます

東京支店 日本橋區小網町三丁目 中野長兵衛 電話浪花五七七四

めりんす ゆふぜん 太物るい

人形町通り 赤のれん おばなや本店 電浪四三四五

くせ毛は何程の雑毛も忽ち

ちゞれ

根治し赤毛を黒化し白毛を防ぎフケを去る妾の實驗したる奇法あり全治を保證す郵券二錢送らば説明書進呈

東京神田三崎町一の二 北澤

大好評

いたづら小僧日記 價四拾錢 郵税四錢

おてんば娘日記 價參拾錢 郵税四錢

續いたづら小僧日記 價參拾錢 郵税四錢

內外出版協會 東京巣鴨 振替三五五番

岩佐病院 日本橋區蠣殻町二丁目廿三番地（電話浪花六九七番）

診察時間 自午前九時至正十二時

内科婦人科 院主 岩佐純
内科 院長ドクトル 岩佐新
外科 醫學士 山村正雄
産科婦人科 醫學士 西村漸
病脊髓病腦 醫學博士 土田卯三郎

○院長 ドクトル 木村順吉
婦人科産科木村病院 京橋卅間堀一丁目角（電話新橋二六七〇番）

◉婦人病專門 院長 櫻井克己
櫻井醫院 芝明舟町十九虎門外宮様前 電話新橋三三三四

産科婦人科專門 診察毎日午前 入院隨時
岩田病院 淺草區左衛門河岸 電話下谷一〇二八

謹告

過般發表致し候八千代黒染懸賞廣告の内懸賞品種類の項は新法令に基き改正の不得止場合相生じ候爲め今回左記の通り訂正致候條不悪思召相願度偏に奉懇願候

懸賞品種類	
拾圓（當店商品切手）五十個	壹圓（金巾寒地）五百五十個
五圓（同）壹百五十個	五十錢（モス帛紗）九千個
貳圓（同）三百七十五個	但し一本もからくじなし

東京日本橋 白木屋呉服店

タカヂアスターゼ

●不消化の徴候 醫學博士谷口長雄氏曰く『澱粉不消化に因する疾病の重なる徴候は胃の膨満、疼痛、溜飲、腸内瓦斯蓄積、便秘若くは下痢等にして甚しく營養障害を來す是等の疾病に對しタカヂアスターゼの頗る有効なるを信ず』と

●高峰博士發見の製法に從ふタカヂアスターゼは毎瓶强度一定効力不變なり是れ普通製法の幾多摸造品と異る特長なり眞正なるタカヂアスターゼを得んには必ず高峰博士のタカヂアスターゼと指定せられよ粉末錠劑の二種あり各地に於ける信用ある藥舗にて取次販賣す

●醫學大家の報告を收載せる『タカヂアスターゼ説明書』あり發賣元東京日本橋室町三丁目三共合資會社へ申込まるれば無代郵送す

創刊 明治三十三年五月十日東宮殿下御成婚の當日 以來九星霜毎週發行期日を違へざること無く約五百號に及べり

婦人界唯一の週刊新聞

婦女新聞

毎週金曜發行（十月二十二日 四百九十三號）

（定價）三ヶ月郵税共前金四十三錢△半年八十四錢△一年一圓六十錢（三ヶ月以下謝絶）

婦人の雑誌は澤山あれども婦人專門の週刊新聞紙はたゞ本紙あるのみ

女學校の事婦人界の事を最も速に且最も正確に報道するは本紙の特長

新しき社會的の出來事にて婦人の知らねばならぬ事柄は皆本紙に收む

聞くと見ると相違のあるは今日の常なり試に三ヶ月だけ購讀せられよ

婦女新聞は毎號皇后陛下東宮妃殿下各宮妃殿下に御覽の光榮を添うす

女子教育及一般婦人界に對する忌憚なき批評は常に斯界に重きをなす

新聞を毎日見ずとも雑誌を毎月讀まずも本紙一つさへあらば充分也

聞きたしと望み見たしと思ふ婦人の智識欲を滿足せしむるは本紙なり

發行所 東京市牛込區西五軒町十四番地（電話番町一三〇六）（振替二八〇七） 婦女新聞社

女子師範學科講義錄

甲種講義錄 毎月二回發行 一年六ケ月完結

右は女子師範學校の課程に準じたるものにて同校卒業程度の學力を養はしむ又母として子女教育上の知識を得んとする人にも適す

乙種講義錄 毎月二回發行 一ケ年完結

右は尋常本科正教員受驗の學力を養はしむるものなるが同准教員受驗者にも適す高等女學校程度の普通學を修めんとする人にも亦可なり

右甲種は昨年十月開講今回更に新學期を開き乙種は今回新設本月より新に開講せり兩種とも此際何人にても隨意入會する事を得

會則

	一ヶ月	三ヶ月	六ヶ月	一ヶ年	一年半全納
甲種	五十錢	一圓四十錢	二圓七十五錢	五圓四十錢	八圓
乙種	五十錢	一圓四十錢	二圓七十五錢	五圓四十錢	

入會希望者は甲種乙種いづれを望むかを明記し幾月分かの會費を添へて本會に申込むべし會費を送るに郵便爲替、振替貯金、又は郵券代用等隨意なれども郵券代用の節は一割増にすべし

見本つき會則 郵券二錢

◉ 東京市牛込區西五軒町 振替貯金一七〇〇二番 帝國女子師範學會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

AIKOKU FUJIN
(THE PATRIOTIC LADIES).

A Fortnightly Home Journal.
Circulates in all parts of Japan; Official Organ of the Japan Ladies Patriotic Society.

Head Office: Iida Machi, Kojimachi-ku, Tokyo.

All communications respecting European and American Advertisements should be addressed to

THE FAR EASTERN ADVERTISING AGENCY
(Toyo Kokoku Toritsugi Kaisha),
38, Naka Machi, Kobe, Japan.
(or London Office: 57, Craven House, Kingsway, .WC.)

愛國婦人廣告取扱
神田三河町 博報堂
京橋宗十郎町 正路喜社
日本橋蛎殼町三ノ十一 大興社
京橋區南紺屋町一 一星社
神田須田町 金蘭社
本郷區湯島 弘進社
京橋區 廣告社

押割麥大張擴

世の進歩に伴ひ最も必要なるは衛生と經濟とであります同時に夫を行ふ好策は何であるかと云へば麥食の勵行であります諸士は醫學大家が數年來麥飯の人體上に適し滋養分を多量に含で居る事を痛說せられし事を新聞雜誌で御存じと思ひます夫に就て我々同業者は先年押割麥を製出し世の攝生家の賞讚を博しましたが尚欠くる點あるを保し難く弊店は是が改良策に苦心して居ましたが今回最も良好なる結果を得ました麥飯を厭忌する人も一度口にすれば必ず常食となされます

弊店は開店以來四方の御花客樣に御愛顧の御禮に最とも良品を撰製し殊に**電氣力押割機械を設置**し廉價を以て販賣致します何卒御用命の程願上ます弊店押割麥の特長は石砂のなきと色白く味好く冷飯となりても食べ惡くありません炊き方は白米一升の中へ押割麥三合位混合して水にて能くとぎ米飯と同樣の水かげんにて願ひます御註文の節は「ハカギ」にて代は御返納致します

定價
○一等押割麥　壹圓に付壹斗壹升　壹升は九錢五厘
○二等押割麥　壹圓に付壹斗貳升　壹升は九錢
○上挽割麥　壹圓に付九升五合　壹升は拾壹錢

押割麥　製造發賣元　麹町區元平川町三番地平川天神前　谷信濃屋商店

◎**小川産科婦人科醫院**
●不姙症●流産豫防●入院隨時産室設備
四谷區荒木町四番地（電話番町八六三番）

嫁入道具　京都美川堺町　**宮崎タンス**　電一八三〇番

御扇子
愛國婦人會御用達
京都寺町五條下ル東側　御影堂　持阿彌

牛乳より優る滋養飲料

專賣特許　佳味滋養　**豆乳の發賣**
製造監督　名譽顧問　醫學博士 大澤謙二先生　藥學博士 丹波敬三先生　醫學博士 遠山椿吉先生

◎**安全**（豆乳は牛乳の如く病菌を含まず絶對に安全！）
◎**滋養**（豆乳は消化も滋養分も牛乳に優ることは醫藥諸大家の證明あり）
◎**佳味**（豆乳は普通ありふれたる豆乳の如き臭みなく味最もよろしく誰にても飲める）
◎**低廉**（豆乳の價格は一合僅に一錢五厘!!!）
◎**調法**（豆乳は菓子にでも料理にでも牛乳同樣に使用して風味少しも違ひなし）

御用の御方は葉書又は電話にて御申込下さい（葉書返上）

●市內**販賣店**（御望の方へは便利に御相談可致候）幷に配達夫**募集**

東京市牛込區西五軒町三十四番地　電話番町一七二一番　特許豆乳株式會社

文明的滋養飲料

內科專門
神田區駿河臺　電本一六六九　**杏雲堂醫院**
院長醫學博士　**佐々木政吉**

婦人世界秋季增刊
樂しき婦人

十月十五日定期增刊　定價一冊拾五錢　郵稅一錢五厘　半年共一圓五錢

◎日本婦人は家庭の**趣味**に富めり……村井弦齋
◎乳飲兒を抱へて裁縫の樂しみ……本多酉子
◎私は**教育家**として生活する**樂しみ**……三輪田眞佐子
◎私の樂しみは何か……高田天野兩博士
◎**良人の職業の感化**……加藤博士夫人
◎獨身で異郷にある女宣教師の樂しみ……
◎**畫家の妻**の如斯には**愉快**あり……岡田八千代
◎尼僧の生活は樂しきもの……水谷教道尼
◎**女醫者の仕事**の樂しみ……鷲山彌生子
◎女事務員として樂しく働く……永井次子
◎**盲目の琴**の師匠の**樂**しみ……小井手とゐ子
◎獨力で經營せる雜貨店の五年……平野絲子
◎**苦心**に**樂**しみ多き女**畫師**……榊原蕉園
◎産婆として働く私の樂天生活……
◎私は**子供の養育**が樂しみ……金子法學博士夫人
◎幼兒を連れて戰難を逃れし當時……長谷川
◎前田侯爵**家庭教師の樂**しみ……片山里子
◎養鷄と園藝と散歩が樂み……小山博士夫人
◎**子供**を連れて**旅行**の**樂**しみ……賀田夫人
▲（口繪）光澤寫眞彩色石版　新婚令孃其他

東京京橋南紺屋町（電話新八四七）**實業之日本社**　振替貯金三二六番地　各書店賣捌

金銀盃類

貴金屬寶石美術品袋物一切何品に依らず迅速と廉價を旨とし誠實に新調又は改作の御用相勤め可申候間何卒一層の御引立を以て多少に不拘御下命被下度奉願上候

宮內省御用達　**玉寶堂**
電話下谷（特九六五番）（一二四四番）

內科一般
東京神田美土代町三丁目十七番地
午前宅診 午後往診　**板垣亨**
電話本局貳千九百十七番

婦人科産科　榊病院
院長醫學博士 **榊順次郎**　婦人科産科 每日午前診察
副醫學士 **久保德太郎**　婦人科的外科 外國留學中
副醫學士 **田代謹二**　婦人生殖器病 泌尿器病及內科一般
●施診火木土午後一時至二時　火木土午後診察
麹町三番町三三（電話番町三九五）

明治四十二年十月廿日發行（毎月五日廿日二回）
（定價金三錢五厘一ヶ月七錢郵稅不要）（廣告料一行金六拾錢）
發行兼印刷人 山澤俊夫　編輯人 永持德一
發行所 東京麹町區飯田町 愛國婦人發行所
印刷所 東京市牛込區榎町 日清印刷株式會社

附録 愛國婦人會記事

本部最近記事

□總裁殿下　宮城支部總會へ御台臨あらせらる其次第左の如し

十月廿二日　午前九時十分　上野驛御發
午後五時五十一分　福島驛御着　御泊
（汽車中御晝食）

十月廿三日　午前九時廿五分　福島御發車
正午十二時五十一分　仙臺驛御着　同所に於て幹事以上の職員、佩有功章者並に高等官及之に準ずる者に拜謁を賜ふ
午後一時五分同所御發　同一時十分御旅館(陸奥館)御着
御道筋停車場を左に南町通
午後二時廿分御旅館御出門高等女學校へ御台臨

十月廿四日　午前十時御旅館御出門同十分會場御着
御休憩
御道筋南町通を左に東二番丁を左に定禪寺通を右に物産陳列場門より貴賓館へ
同十時三十分開會
同十一時閉會御休憩中陳列館御案内
同十一時三十分御休憩所に於て御晝餐
同十二時御發車宴會場(偕行社)へ御案内御道筋勾當台通を右に定禪寺通を左に國分町を右に立町を經て元柳町同十二時廿分宴會開會(立食)
同午後一時同所御發同一時十五分御歸館
御道筋元柳町を左に大町芭蕉辻を右に南町を左に南町通
午後五時御旅館に於て御內宴（日本料理）十月廿五日午前八時卅分御旅館御發午前八時四十分仙臺驛御發車
午前九時十分鹽釜驛御着
同九時十五分御乘船
(鹽釜神社御參拜なれば當時間を要す)
午前十時四十分松島御着大觀山貴賓館に於て御晝餐
午後名勝御散歩
御休憩
午後三時二十分　松島御發車
同三時四十九分　同停車場御發
同四時廿七分　仙臺驛御着
同四時五十分　御歸館

十月廿六日　午前八時五十五分　仙臺驛御發
午後八時五十分　上野驛御着

□會長及副會長　本月六日子爵夫人岡部坻子會長を、伯爵夫人阿部篤子、副會長を總裁殿下より囑託せらる
同日公爵夫人一條悦子副會長辭任せらる

□理事囑託及辭任　本月二日伯爵夫人阿部篤子、男爵夫人濱尾作子、棚橋絢子、三輪田眞佐子に理事囑託せらる、尚前理事公爵夫人德川泰子、同島津田鶴子、子爵夫人谷玖滿子九月二十七日辭任せらる

明治四十二年九月中業務一斑

第一、職員囑託並退職

○囑託

韓國本部長事務取扱　石塚　忍子
同　顧問　石塚　英藏
同　副長　大島　敦子
同　同　小宮　泰子
同　同伯爵夫人　兒玉　澤子
同　同　三浦　喜代子
東京支部評議員　横溝　武眞子
山梨支部同　佐竹　松枝子
同　同　松村　信子
同　同　風間　千代子
同　同　河内　きよ子
愛知支部同　柴田　以代子
韓國本部同　李　鈺娜
同　同　熊谷　はつ子
同　同　山口　かめ子
同　同　香坂　禮子
同　同　國分　琴子
同　同　小松　壽子
同　同　渡邊　谷子
同　同　鈴木　鈴子
同　同　道家　千代子
同　同　村上　かん子
同　同　俵　松子
同　同　松井　貞子
同　同　津輕　照子
同　同　佐々木　春尾
同韓國本部評議員　木島　鞆子
同　同　京口　貞子
同　同　峰尾　錦子
同　同　朴　淵娜
同　同　三宅　仲子
同　同　永濱　靜子
同　同　頭本　春子
同　同　國分　峰子
同　同　外波　美晉子
同　同　趙　氏
同　同　李　嘉永
同　同　若林　恒子
同　同　菊池　萱子
同　同　井上　八重子
同　同　中村　いせ子
同相談役　伯爵　兒玉　秀雄
韓國釜山委員部副長　迫間　智惠子
桑港委員部長　永井　求子
各支部幹事部長　村木　りき子　外六名
各支部幹事部顧問　村木　初太郎　外四名
宮城縣支部參與　鈴木　邦義
德島支部主事　桃浦　錦之助
各支部幹事木村兼子外二百四十名

○退職

辭退　本部理事公爵夫人　德川　泰子
同　同公爵夫人　島津田鶴子
同　同子爵夫人　谷　玖滿子
改選　韓國本部副長伯爵夫人　兒玉　澤子
同　同　同　三浦　喜代子
同　同　同　小宮　やす子
轉任　東京支部評議員　佐藤　瑞子
同　兵庫支部同　水上　美和子
同　千葉支部同　田村　みつ子
同　愛知支部同　長谷川　つな子
同　山梨支部同　三澤　道子
同　廣島支部同男爵夫人　木越　貞子
改選　韓國本部同　香坂　禮子
同　同　同　加藤　眞佐子
同　同伯爵夫人　兒玉　澤子
同　同　同　鍋島　誠子
同　韓國本部評議員　古谷　美與子
同　同　同　國分　琴子
同　同　同　岡本　靜子
同　同　同　深野　春子
同　同　同　佐々木　みさを
同　同　同　目賀田　逸子
同　同　同　鈴木　鈴子
同　同　同　丸山　たけ子
同　同　同　大谷　温子
同　同　同　李　鈺娜
同　同　同　崔　貞
同　同　同　朴　淵娜
同　同　同　熊谷　はつ子
同　同　同　山口　かめ子
同　同　同　和田　たつ子
同　同　同　三浦　喜代子
同　同　同　信夫　貞子
同　同　同　松井　貞子
同　同　同　三增　とも子
同　同　同　若松　りう子
改選　韓國本部評議員　染谷　たけ子
同　同　同　菊池　萱子
同　同　同　田結　穣美子
同　同　同　大木　千賀子
同　同　同　小松　壽子
同　同　同　小田　柿衣子
同　同　同　和田　たつ子
同　同　同　渡邊　谷子
同　同　同　曾我　すき子
同　同　同　中井　ひな子
同　同　同　中村　いせ子
同　同　同　前間　八重子
同　同　同　淵上　たつ子
同　同　同　古城　金枝子
同　同　同　佐々木　はるお子
同　同　同　木島　こま子
同　同　同　京口　貞子
同　同　同　木村　柳子
同　同　同　峰尾　柳子
同　同　同　三島　靜子
同　同　同　道家　ちよ子
同　韓國本部評議員　巨智部　久子
同　同　同　村上　かん子
同　同　同　横　ゆう子
同　同　同　久保田　とよ子
同　同　同　井波　ちよ子
同　同　同　竹山　逸子
同　同　同　黒田　琴子
同　同　同　矢野　きよみ
同　同　同　俵　松子
同　同　同　大庭　敦子
同　同　同　市原　つぎえ子
同　同　同　津輕　照子
同　同　同　李嘉　之子
同　相談役　伯爵　兒玉　秀雄
同　同　三浦　彌五郎
轉任　各支部幹事部長中島とく子外四名
轉任死亡　各支部幹事部顧問椎原國大外五名
轉任　函館支部參與　龍岡　信熊
辭退　德島支部主事　岩野　三根雄
轉任辭退死亡等　各支部幹事水野しま子外十七名

第二、有功章其他

○有功章賞狀

功績に依り三等有功章并賞狀
北海道支部幹事部委員　鹿島　直人
同　同　贊助員　渡邊　辰次
同　同　幹事　羽部　とよ子
同　同　同　鈴木　うめ子
同　同　同　富樫　田鶴子

功績に依り二等有功章并賞狀
神奈川支部幹事部事務員　有賀　初吉

金五拾圓寄附に依り三等有功賞并賞狀
千葉縣支部評議員　田村　みつ子

功績に依り二等有功章并賞狀
宮城支部　菊池　むめ
青森支部幹事部長　近森　愛子
同　幹事部顧問　近藤　茂晴

功績に依り三等有功章并賞狀
同　幹事部委員　八木橋　德藏
同　同　同　佐藤　萬吉
同　同　同　鳩士　常從
同　同　同　境　慶次郎
同　同　同　橋本　昂
同　同　同　菊池　郡次郎
同　同　同　鈴木　濱江

功績に依り一等有功章并賞狀
山形支部幹事部長　柳庭　郁子

金五拾圓寄附に依り三等有功章并賞狀
同　佐藤　その子
石川支部　安宅　ゆき子

功績に依り二等有功章并賞狀
德島支部主事　岩野　三根雄

功績に依り三等有功章并賞狀
佐賀支部幹事　田澤　美壽子

○謝狀物品

功勞に依り第一種謝狀北海道支部幹事足立靖外三十六名功勞に依り第二種謝狀北海道支部幹事津田たま外二十七名金貳圓寄附に依り第二種謝狀福島支部渡邊十三郎外一名功勞に依り特別謝狀并木杯一組佐賀支部幹事部事務員深町推緑功勞に依り特別謝狀并木杯一個佐賀支部幹事部事務員中島保外一名功勞に依り特別謝狀韓國本部幹事巨智部久子外三名

京都及宮城支部

兩支部共總會舉行宮城支部總會へ總裁殿下御台臨次第は前項の如く、而して京都支部は十一月七日總會を擧行す共に詳細次號に報ずべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京支部

□神田幹事部　にては今二十日午前十時より一方遺族癈兵諸氏を慰め又一方には會員相互の親睦を厚うするの目的を以て神田錦輝館に於て懇親會を開き餘興として木崎神道館社中の「少年劍舞」、村上秀尾氏の「薙刀仕合」及び藤澤一座の「喜劇女天下」の催ありと

新懸賞　十一月五日締切の　投書總數

但し和歌、俳句、短文、新體詩の總てを含めて十一月五日に發行すべき本誌の投書總數を前以て當ていたゞきたいのです

一、締切。　は十月卅一日限

二、賞品。　は一番總數に近い數若しくは正確の數を云ひ當てた方を一等に、それから順に三等まで都合三人を當選者と致します。賞品としては一等に半年分、二等に三ヶ月分の『愛國婦人』購讀券を、三等の方には『女德論叢』一部を差上げます。

三、用紙。　は端書で宜しう御座います。そして單に「千五百六十通」とか「三百二十通」とか、その總數だけを書いて下されば宜しいのです。

新柄品揃

京都四條御旅町
熊谷呉服店
振替口座大阪　五五二七

季節向流行の
半衿は　神田　赤のきんに限る
本店　神田表神保町壹番　電話本局二八五三
出店　新橋博品館階上

足袋販賣
東京麴町區飯田町九段坂下公園
愛國婦人會
東京支部授產場
電話番町一五二〇、一七四五　郵便振替口座　一五、一一四

催眠術

讀者諸君よ!!如何にせば生涯中多額の金錢を收得し、多大の幸福を享有し、健全なる身體を保持する事を得可きやを望まるゝならん。加之、甚大の成功を期待せらるに非ずや、本協會は衆人に援助を與ふるを以て本來の目的とするを以て如何なることを成し遂げ能ふかを證據立つる迄は、讀者に向つて失費等の煩はしきことを望むものにあらず！本協會の出版に係る美事にして立派なる解明圖繪を挿入し且つ和譯上梓せる、百頁大の書物を無代價にて進呈せん、此神秘的の著書は如何なる職業又は營業に從事せらるゝを不問向上發展成功することの原理原則を詳述せり。

●●●自宅獨習——本書は催眠術、心理感應術感授治療法、等に關する神秘を遺憾なく極めて叮嚀に敎示しあるを以て諸君は自宅に於て任意數日間獨修の上は充分に本義を會得せられ、又之を知己朋友間に應用せらるも受術者は毫も覺知せず實に斬新奇拔の法術にして電光の如く當意即妙吐嗟の間に之を應用し得ること最も妙なり、本協會は諸君に對し慥かに應用し得らるゝことを確證しあるを以て本會の敎示する通り修業し不成功の曉には遲滯なく、金貨壹千弗を送呈す、此の不可思議なる本書は、浮世を悲觀し絕望せる數百千人の生命を救濟復活せしめ、健全なる身心多大の幸福を享有し、少なからざる財貨を收得し、その成功を歡喜しある者數ふるに遑あらず、無代價にて本書を送呈すべきを以て滯遲なく萬國聯合郵便端書（金四錢）にて左記米國紐育科學協會へ宛て申込まれよ

NEW YORK INSTITUTE OF SCIENCE.
DEPT. 512 D
ROCHESTER N. Y., U. S. A.

通信は總て日本文宛名は英語にて記されたし。若し英語の記けぬ人は右宛名を切拔き端書の表にはるべし

家庭敎師志望
身元確實にして私立大學在學中のもの餘暇家庭敎師を望む御用の方は當發行所内德富宛御照會を乞ふ

繪はがき通信　一ヶ月六回通信を發す△會費一ヶ月廿四錢半ヶ年壹圓三十錢△申込所東京本鄉駒込丸山新町七番地　つばめ會

正七位勳五等醫學士藤川秀次郎先生
產科婦人科專門
婦人諸大家稱讃發明
婦人月經時の大福音
商標 A 特許一九八六一
衛生　婦人　安全帶
SANITARY TOWEL　東京市神田區淡路町壹ノ壹
製造發賣元　安全堂
九州一手販賣　長崎市西山四〇　安全堂

婦人病の大原因は重に月經時の處置法の如何にありとは專門大家の證する處、然に紙布脫脂綿等を用ゆれば、經行を停滯せしむる大害と、其片々纖維の殘留に依り重患を釀す事往々あり。發明者之を憂ひ多年苦心の上、該新なる本品を案出し其原料は最良の脫脂消毒法を施しある故、衛生上無害安全、且御使用上座臥進退極めて輕快なり、然れば世の御婦人方月經時及産後白血長血等の際御身體を大切にし業務を樂にせられんには是非共御使用あらん事を希ふ

價正〜壹ダース金壹拾錢中ダース金拾六錢大抵の御婦人が毎月中ダースにて充分なり
附屬帶壹筋金貳拾錢（但し帶は壹筋にて二三年は使へます）

◎普通小包料及荷造賃

貳ダース帶貳筋迄　金拾貳錢	拾ダース帶拾筋迄　金四拾四錢	拾六ダース帶拾六筋　金六拾八錢
六ダース帶六筋迄　金廿八錢	拾四ダース帶拾四筋迄　金六拾錢	此外は鐵道小荷物及通運便に依る

東京市麴町區錢瓶町（常盤橋内）
日本興業銀行
電話本局　一、二八〇〇番　三、三〇〇番　四一一番　（特）三七一番　一〇二番
資本金壹千七百五拾萬圓

營業科目
一擔保附社債に關する信託業務
一有價證券其他貴重品等の保護預
一有價證券の賣買元利金の支拂及び取立
一地方債、社債、株式等の發行募集事務
一各種の信託事務
一國債證券、地方債證券、社債券、株券の擔保貸付及手形の割引
一國債證券、地方債證券、社債券の募集又は引受
一法律規定に依り設定したる財團を抵當とする貸付
一定期預金、特別當座預金

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN